香美市文芸

風の流れ

【短歌】岡崎　桜雲　選

不等辺三角形にこだわりて床の節目をも目線引きをり　小原　子川
切株の上に伸びゆくいちょうの枝梅雨続きいて青々繁る　小野寺朱実
林道に季節の花を絶え間なく咲かせて君の心根やさし　小松　隆之
そよ風にレモン色の花さゆれつつ今宵一夜をひらく夕すげ　門脇　千代
古里を多く語らぬ母なりき野良に耐へたる喘息（ぜんそく）の肩　森本　幸美
冷房の爺の部屋の掛時計十二時半を一つのどかに　山本　太幸
穂揃いを黄金（たから）に譬（たと）へし旧友の便の途絶へて幾年月ぞ　都築　忠義
初穫りのオクラの緑鮮やかに今朝の味噌汁格別旨（うま）し　森　楓
手櫛（てぐし）持て梳（すき）にし白き木の葉髪思い巡らす永き来（こ）し方　岡田美代子
乳飲児の曽孫（ひまご）三人集い来ててんやわんやのわが家健やか　高野　和一
世に遅れ齢（よわい）重ねて住む庭に蜥蜴（とかげ）が走る雀が遊ぶ　坂上のぶ子
遠き日に祖母と流しし灯籠（とうろう）のほのかな光今も揺れをり　山崎　貴子
田面（たづら）より石垣高き山の田を積みし人等に守れぬを詫（わ）ぶ　小松　敏子
夏枯れて草木も人も雨を恋う猛暑日続く入道雲に　楮佐古きよ
門前より空家の庭の歌碑見ゆる在りし日のさま詠（うた）いてむなし　盛岡　雛子
野の道に手折る二本の半夏生（はんげしょう）はや徒（いたず）らに過ぎし半年　林　敏子
しとしとと心を濡らす五月雨（さみだれ）に父の教えし唄口ずさむ　韮生　灯
築山にむくげの花の咲きほこり亡き夫偲（しの）ぶ梅雨のひととき　山本登美子
木洩れ日の優しき光吾をつつみこの一時に深呼吸する　公文　千恵
温かくあじさいの絵に添う便り君の全てに煌（きら）めきの充つ　谷内　務
風も好き星も好きだよと叫びたい胸一杯の幸せだもの　吉本　悦子
モネの庭つゆの晴れ間に訪（と）ひゆけば青きスイレン貴公子に見ゆ　門田　明子

ウォーキングといふには少々おこがまし遠田の蛙（かはづ）止めて聴く　竹村　咲子
世の中は右向け右で流れゆく裾（すそ）の長さの気になる外出（そとで）　大石　綏子
生業（なりはひ）の過ぎこし方を想ひみるきびしき韮作にもよろこび有りしか　武内　弘子
梅雨晴れのわが家の庭に咲きほこるグロリオサ無事台風そるる　林田　幸子
夏草の繁れる中に山百合の朱色くつきり七月となる　松中　賀代
きのふ炷（た）きし白檀（びゃくだん）の香こもりゐる茶室の障子惜しみつつ開くる　小松　禮子
年齢を思はざるとも思ふとも友らこの頃口には出さぬ　古川　安子
梅雨晴れ間さやげる玉蜀黍（きび）の葉がくれに莢（さや）の毛先の三つ四つと見ゆ　公文　正子
橋の辺の川面に映る花空木（はなうつぎ）けふの歩みは此処（ここ）までとせむ　小松もとみ
我が家を心配くれし息子（こ）の電話台風八号東はこれから　伊藤　清子
忽（たちま）ちに過ぎし半年亡きを言ひ曇りは深し槿（むくげ）の道に　佐竹　玲子
まはり路（みち）して雨降る前のさくらばな名残を惜しむ人に混じりて　都築　初代
蝶ちょきて見えつかくれつとびかいしいずくともなくみんな消えゆく　古谷　由美
明け近く窓にひとつ聞く虫の声つゆのあがるか風さびしかり　佐々木真里
電線に音符のごとく雨流る忙しく飛ぶは子育ての燕　山﨑　淑子
石ひとつ置きて祈りを累代の墓のかたへに生きし証しを　小野川恵仁
里人をお守り下さる予岳寺の鐘の音きこゆ夕闇のなか　大石紗智子
二ヶ月目の孫の笑顔に支えられ介護の仕事に吾は勤（いそ）しむ　近藤　由美
戦没の追悼式に参加せし父から子への遺言読みぬ　宮地　亀好
産声も読経も覆ひて百余年軋（きし）みもさらば屋根ふき替ふる　町　耿子
ありなしの風にそよぎて柿青葉窓にさし入る夕日まぶしも　明石　敬恵
母と行くウォーキングは久しぶり様々な人との出会いたのしく　吉川　恵
おそろしきほどの命のつよさ見せあたりを圧す卓の洋花　岡崎　桜雲

俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載を希望される方は、掲載月の前月1日までに、ご応募ください。

【投稿先】香美市役所総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
〒782－8501（住所記載不要）　53－5958

８月14日、柳沢グラウンドで、第54回奥物部湖水祭が開催されました。
大迫力の花火と、湖面を流れる灯ろうの競演に酔いしれ、時折強くなる雨にも負けず、訪れた人たちは音楽に合わせて笑顔で踊っていました。

奥物部湖湖水祭

香美市夏祭り

７月27日、美良布多目的運動広場周辺で、川上様夏祭りが開催されました。
少年相撲やうなぎつかみ、力自慢、宝さがし、キャラバンバンなど、盛りだくさんのイベントが行われ、会場は大勢の人で盛り上がりました。

川上様夏祭り